

長泉寺

〒700-0807

岡山市北区南方3丁目10番40号

TEL (086) 223-7450

FAX (086) 221-0302

振込 岡山 01250-6-6418

ホームページ www.chosenji.net

長泉寺だより 第345号



今年もあとわずか。この一年も色々あったが、ユダヤ人もイスラエルと、ガザのイスラム組織ハマスとの悲惨な紛争は見事に堪えない。他方で我が国では、いわゆる宗教二世の問題が話題となった。

宗教には、人を救う力があると同時に、人心を豹変させてしまうこともあり、悪く作用すると困ったことになる。

振り返ると、一九九五年の地下鉄サリン事件は、「宗教離れ」とい

う言葉が叫ばれるきっかけとなった。人々は凶行におよんだオウム信者を見て、宗教に頼るよりも自分で考え、合理的に生きていく方が安全だと感じたのだろう。確かに、科学技術が闊歩

気づけば仏教

ひともし

する現代、宗教に頼らずとも人は幸せに過ごせそうな気もする。

他方で日本の伝統仏教は、そんな時代にこそ相性が良いように思う。面白いのは、最近の科学が生命や意識などの謎を解き明かしていく

度に、古来より伝わる仏教哲学の正当性が次々と証明されていくのだ。妄信を離れ、自然を静かに観察すると、気づけば仏教の教えに触れているのである。

弘法大師こうぼうだいしご誕生二二五〇年をことほ寿いだ本年六月、岡山にお招きした解剖学者の養老孟司やうらうたけし先生は、「自らを無宗教だという日本人は、無自覚的な仏教徒であろう。」とおっしゃった。

「宗教離れ」の次は、「気づけば仏教」かもしれない。(龍)

清々しい新年を迎え 一年の安寧を祈る

初薬師 大般若法会

令和6年 正月 8日 (月祝) 10時開白 於：長泉寺本堂

奉修「大般若波羅蜜多經転読法会」

清興「奉納 日本舞踊」 千翔有流さん

祈願札のお申込みは、12/22～新年 1/7 の間に寺務所まで申込用紙をお届け下さい。

皆様に楽しいお正月をお過ごしいただくため、祈願札をお申込みの方には、

特別祈禱酒「ながいづみ」を贈呈させていただきます。

長泉寺ホームページからも申込むことができます。

津軽海峡の旅

「長泉寺杖心会」は十月八日から十日の三日間、「青森函館津軽海峡の旅」と題し、青森県の青龍寺様、恐山菩提寺様を参拝しました（参加十七名）。

全仏山青龍寺様は、昭和二十二年に高野山青森別院として織田隆弘師が創建された寺院で、日本一の大きさを誇る大日如来座像「昭和大仏」（昭和五十九年開眼）を祀られていることで有名です。開山隆弘師はさらに、平成四年に金堂、同八年に五重塔を建立。壮観なる伽藍が配されており。



全仏山青龍寺 昭和大仏



全仏山青龍寺 五重塔

青龍寺様に到着した杖心会一行は、まずは金堂でご法楽をあげ、そこで同山住職の織田隆玄師よりご挨拶を賜りました。その後、副住職の織田隆全師よりご説明をいただきながら、五重塔、昭和大仏を内拝。お忙しい中ご対応いただきました青龍寺様には心より感謝申し上げます。次第です。

翌日は早朝より恐山菩提寺様へ。到着後すぐに堂内の薬師堂へご案内いただき、同山院代（住職）の南直哉師よりご法話を賜りました。内容についてはここでは記せませんが、一時間におよぶそのご法話は、笑い、感動、学び、すべてが存分に含

まれる大変素晴らしいものでした。ありがとうございました。ご法話の後は境内へ移動し、本堂前でご法楽。さらにはイタコさんの順番待ちに並ぶ長蛇の列を横目に見ながら、地獄谷から極楽浜という参拝コースを巡りました。

恐山の後は、本州最北端の町「大間町」へ。感動的とも言える大間の鮪丼を昼食にいただき、大函丸に乗船。北海道函館へ渡りました。函館ではその日、ホテルチェックインを済ませて金森赤レンガ倉庫を見学。夜には



恐山菩提寺 南直哉院代（写真中央右）

懇親会で北海道の幸を美味しくいただきました。さらには、函館山より大変美しい夜景を眺めることもできました。

最終日は、「函館朝市」の自由散策、並びに「五稜郭」を観光し、函館空港より帰路に。

三日にわたり晴天に恵まれ、良い旅となりました。ご参加いただきました皆様には感謝申し上げます。また、定員のためご参加いただけませんでした方には大変申し訳ありませんでした。皆様には引き続き杖心会をよろしく願いたします。



函館山

有松達朗様

多田章利様

田中武彦様 悦子様

田邊善治様 滋基様

原田清子様

人見和幸様

丸山幸男様

心より感謝申し上げます

主施主 奉納 幟幡

令和5年11月21日

訃報

寺谷定香さんご逝去

法号 壽明院定香妙詠大姉

当山世話人で、故・寺谷章政元副総代長の奥様であった寺谷定香さんが先月十九日、享年九十五歳にてご逝去されました。

寺谷さんはご生前、特に御詠歌を長年にわたって精進され、多くの方に慕われました。ここにご生前の感謝と、哀悼のまことを捧げます。 合掌



霜月大師ご縁日

十一月二十一日の「霜月大師ご縁日」は、毎月恒例の「写経」、「空海プログラム（法話）」に加えて、永代供養樂陽廟の合同慰霊法要「春秋祭」、並びに戦没者精霊供養「安らぎの塔前 平和祈願法要」を奉修。

さらには「長泉寺 書の会」、並びに、「御室流華道教室」の作品展を行う文化祭を開催しました。快晴に恵まれ、約四十名の方々にご参拝いただきました。関係者皆様には、ご協力をありがとうございました。



平和祈願法法要 於 安らぎの塔

寺子屋文化講座

去る十月は、寺子屋文化講座を二座、開講しました。ひとつは、本来八月に予定していた延期となっていた「岡山

の河川」について。講師には国交省岡山河川事務所・流域治水課長の松井大生さんにお越しいただき、主に旭川、百間川における洪水対策の歴史、また平成三十年「西日本豪雨」以降、大きな課題となっていた高梁川と小田川の合流地点付け替え工事について、さらには近年の気候



朝森要先生

変動を踏まえた我々一般にも取り組める流域治水対策について詳しくお話をいただきました。もうひとつは、方谷研究会会長で岡山県史編纂委員会専門委員を勤められた朝森要先生を講師にお招きし、岡山に生まれ奈良・平安初期に大活躍した「和氣清麻呂」について、その後の歴史に大きな影響を与えた「宇佐八幡宮神託事件」を中心に詳しくお話をいただきました。いずれの会にも多くのご参加をいただき、盛会となりました。 次回は十二月十八日（月）、講師に日本酒ライターの前田真紀さんをお招きし開講します。お楽しみに。

本堂鑿子奉納儀

施主 高取邦子氏

戦後の困窮から復興を目指していた昭和三十年代、数年間にわたって当山で過ごしたことがある高取邦子さん（当山名誉住職実姉）がこの度、当山本堂で用いるための鑿子を奉納下さいました。ついでに十月十六日、同氏ご家族、ご親族をお招きし、本堂にて奉納の儀を奉修。新たな素晴らしい鐘の音が堂内に響く中、本尊薬師如来にご法樂を捧げました。

法会后、ご高齢のご本人に代わってご挨拶をされた高橋和子さん（ご長女）は、「母はもう年老いたわけですが、長泉寺で過ごしていた若いときのことを今でもよく語るのです。きっと人生で一番楽しかったと言って良いぐらい素晴らしい思い出がたくさんあるのだと思います。その母の想いをなんとか長泉寺

にも役立つ形で残せないかとずっと思っていたので、今日は本当にうれしい。」と涙ながらにおっしゃいました。

当山として、今後末永く、大切に使用させていただく所存です。ご本人様をはじめ、ご家族、関係者の皆様には、心より御礼を申し上げます。

なお、同鑿子は富山県の高岡製、三尺三段上りという特注品で、響きはまさに絶品です。皆様にもぜひ一度お聴きいただければ幸いです。



新ロゴマークのご紹介

総代会はこの度、多くの方々
が広く当山に親しんでいただ
けるよう、新たに当山のロゴマ
ークを作成しました。

デザインは、(株)cifaka（北
区石関町）にお勤めされている檀
徒の有松歩美さんをお願いし、
半年以上にわたって住職らと検
討と修正を重ねまして、左図の
ように素晴らしいロゴマークが
出来上がりました。



長泉寺

長泉寺の新しいロゴマーク

去、現在、未来の三世に渡ってつ
づいていくように、三種類のモチ
ーフを、三つのパーツで、御室流華
道に見られる、「体・相・用」の型を
元に構成しました。

一つ目のモチーフは泉。泉とは、
水が湧き出るみなもとです。上へ
上へと湧き出るエネルギーを表現
しています。

二つ目のモチーフは薬草。
「薬園山」という山号にもなってい
るように、かつて長泉寺があった
地には薬園がありました。そこで
育てられ、人々を癒やす助けとな
っていた薬草のイメージです。

三つ目のモチーフは手。ご本尊、
薬師瑠璃光如来の右手「施無畏印」
の形です。薬師瑠璃光如来が夜明
けの空、東方瑠璃光浄土の仏様で
あり、その瑠璃色は「目覚め」、「覚
醒」を象徴していることから、シン
ボルマークは瑠璃色になりました。

「新ロゴマークのコンセプト」

長泉寺は、人々が集い、人々を
癒やす、泉のようなお寺です。

長泉——泉が長ずる。泉が過

ながいづみ

総代会はこの度、コロナ禍で失った元気を多くの人々に取り戻してもらうことを祈願して、「ながいづみ」という清酒を企画し、嘉美心酒造(浅口市寄島町)に数量限定で製造していただきました。

当酒は、先月四日の初搾りの際に龍門住職が蔵へ出向き祈禱を行い、さらには冬至である十二月二十二日に当山本堂に御供し、皆様のご多幸を祈禱する法要を奉修いたします。

祈禱法会后、令和六年正月「大般若法会」における祈禱札をお申込みの方に贈呈させていただきます。ほかに、酒ショップ山本様、岡山天満屋様、倉敷天満屋様などで購入できます。



特別祈禱酒「ながいづみ」

岡山白桃酵母使用純米吟醸生原酒
アルコール度数 16.5%
原材料 米(国産)、米こうじ(国産米)
精米歩合 58% 内容量 720ml

☆ながいづみに込める想い☆

「人が人に会うことができない」という三年間におよぶコロナ禍によつて、多くの人々が活動を自粛し、子どもや孫に会えないなどの寂しい想いをしてきました。しかし、ようやくこの長いトンネルのような時間をくぐり抜け、令和六年は久しぶりに行動制限のないお正月を迎えます。

どうか多くのご家庭で、ご家族、ご親族とともに新年の夜明け、並びに「コロナ禍の夜明け」を祝い、当酒を酌み交わしながら大切な人に会うことの喜びや食卓を囲む幸せを一層に感じてもらいたいと願っております。

またそれは、社会が再び元気を取り戻していく上で、とても大切な時間となるはずです。

真言宗——密教のふるさと

(本拠)は南インド。南天竺とも言われました。そこはインド人がヨーロッパ人種アリアに追われ、たどり着いた場所でもあります。(※ヨーロッパ・インド族、モンゴリア・インド族に分けられる。)

日本語とタミル語 ～日本語と真言宗シリーズ～ 名誉住職 光研

り、金剛薩埵より密教を相承されました。それが、真言宗をはじめ、大乘仏教のスタートであります。

ことば(言語)でいえばドラヴィダ語系。その一つがタミル語で、一説には「やまことば」の語源だとされます。令和五年、『日本語とタミル語』(幻灯舎刊)で著者、田中孝顕氏はその接触言語説を問われました。

たとえば「飛鳥」。その音「あすか」はタミル語で、日本に仏教が初伝した際に伝わったものではないかと。また「大和」も同様で、タミル語の「ヤ(太陽)マト(穴・窓)」が由来である可能性が高いそうです。この他にも日本語の数々にタミル語由来のものがあります。

その初祖がナーガルジュナ、龍樹菩薩で、南インドにあつたとされる南天鉄塔の中に入

興味深いものですね。(続)

お酒といえば、仏教ではタブーであるイメージがあるかと思いますが、清酒の歴史を見ていくと実は仏教とともにあるというところをご存じでしょうか。

奈良にある菩提山正歴寺は「日本清酒発祥之地」として知られ、室町時代に近代醸造法の基礎となる酒造技術を確立し、現在の清酒造りの原点ともなっている寺院です。

室町時代、商品の流通が盛んになるにつれ、貨幣経済社会が形成されていきました。一方で応仁の乱が起こり、時代は戦国の世へと向っていきます。当時の寺院は朝廷の庇護下にあったわけですが、戦国大名が全国あ

ちここに勃興することで朝廷が経済的な余裕を失ってしまい、寺院側も存続のために自らの力で貨幣を生み出すことが求められるようになりました。

そこで正歴寺や興福寺などの僧侶たちは、濁酒のようなお酒しかなかった当時、莊園から納入された米を用いて新たなお酒の開発、製造を開始しました。

我が国における最古の酒造技術書である『御酒之日記』には、正歴寺において開発された南都諸白（いわゆる清酒）「菩提泉」の醸造法（菩提配）が記述されています。それは、段仕込み、諸白造り、火入れ、乳酸菌発酵など、現代でも使われている日本酒造りの基礎技法であり、まさに清酒発祥の原点と言えます。

提泉は、朝廷や室町幕府九代将軍足利義尚が愛飲したほか、織田信長も武田勝頼討伐に功をなした徳川家康に振る舞ったと伝わっています（興福寺『多聞院日記』）。

僧坊酒は正歴寺や興福寺などの南都だけでなく、河内や越前でも盛んに造られました。当山とも法縁のある天野山金剛寺（大阪府河内長野市）で造られた清酒「天野」もそれらを代表するひとつで、特に豊臣秀吉などの大名らに好まれました。

このように、仏教ではあまり好ましくないとされるお酒ではありますが、室町時代には清酒が寺院存立の危機を救い、また、その開発も寺院僧侶の手によって成されたのです。それはまさに千年以上にわたって神仏習合の時代を歩んできた我が国ならではの歴史であり、現代にも続く奥深く、多様な文化そのものでありましょう。

ボランティア基金便り

いつもご協力をいただきありがとうございます。

いただいた浄財は、人道援助宗教NGOネットワークRNNを通じて、特定非営利活動法人AMDAに寄託されます。

☆志納金 32, 134円

令和五年八月二十三日～十一月三十日

トルコ・シリア地震 5, 649円

白神美保、伊丹俊也、佐藤裕己、平松美由紀、井本美保子、佐藤恭子、糸島万貴栄、宮重洋子、小林美智子、山田紀香、光岡香里、中村久美子、内藤巧新和子、北村公秀

東日本大震災救援 8, 357円

白神美保、中村久美子、伊丹俊也、佐藤裕己、平松美由紀、佐藤恭子、宮重洋子、小林美智子、山田紀香、光岡香里、内藤巧、森定奈都子

ウクライナ難民支援 18, 128円

片岡千鶴、白神美保、中村久美子、伊丹俊也、平松美由紀、佐藤裕己、井本美保子、佐藤恭子、糸島万貴栄、宮重洋子、小林美智子、山田紀香、光岡香里、内藤巧、森定奈都子、長江志摩子、岩元美紀、北村公秀



正歴寺の境内に建つ碑

寺院で造られた清酒は「僧坊酒」と呼ばれ、当時大変な人気を博しました。菩



ウクライナ危機に加え、パレスチナ国ガザ地区において悲惨な戦闘が発生した本年、コロナの五類移行や野球のWBC優勝など嬉しいこともありましたが、どちらかというとき暗いニュースが影を落とした一年だったように思います。

一方で当山では、コロナ禍の過去三年に比べるとずいぶんと元気よく各種事業が行われました。年始の「大般若法会」、二月「節分星まつり」、五月「本尊大祭」、七月「白須賀観音夏まつり」、八月「合同盆供養法会」、「おせがき行」といった主要なものすべてコロナ前と同規模で開催。「玄関前での読経」というスタイルが続いていた各家参拝も、お盆行より通常の形に戻すことができました。

各種文化活動（杖心会、寺子屋、将棋クラブ、御詠歌、合



7月16日 「白須賀観音夏まつり」

唱団など）も、ほぼすべてにおいてコロナ前の形に戻り、大勢のご参加をいただきました。加えて、昨年秋季に台風で倒壊した「水掛観音像」が四月に晴れて修復、開眼法会を奉修。十月には青森、函館という遠方にも団体参拝をすることができました。お寺にたくさんの方の笑顔と活気が戻ってきたことは、住職として大変喜ばしいことです。

総代会も活発で、定例会は9度の開催。運営や財務について熱心な協議を持つことができました。六月の「檀信徒総代会総会」（岩見徹総代長）では、渡邊進副総代長がご退任。新副総代長に丸山惣一総代が就任され、浦上洋氏が新たに総代に加わりました。今号『いづみ』でもご案内しました新ロゴマークの作成や「特別祈祷酒ながいづみ」の企画等について、熟議が持たれました。さらには中長期的なお寺の護持、伽藍整備の検討など、総代役員様には多くのご献身をいただきました。ひたすらに感謝する次第です。また本年は、宗祖弘法大師ご誕生一二五〇年という記念の一年でもありました。旧岡山市内の真言宗寺院で構成される「岡山市弘法大師降誕会」は、かねてより企画準備をしてきた「養老孟司先生記念講演会」、並びに記念法会「青葉まつり」を六月に開催。私はこれら慶祝事業を事務局という立場でお支えし、法幸の限りでございました。



佐々井秀嶺師（左）養老孟司先生（中央）筆者（右）
お二方の特別対談の席にて 6月11日

その他の事業としては、同月にインド仏教界最高指導者である佐々井秀嶺師を四年ぶりに招致。当山で交流会を開くほか、養老孟司先生との特別対談も企画することができ、貴重な時間となりました。来年も元気よく各種事業に取り組んでいきたいと考えております。檀信徒皆様には、どうか引き続きお力添えを賜りたく、よろしくお願いいたします。

行く年 来る年

除夜の鐘

12月31日(大晦日)
午後11時40分頃～

清らかな新年を迎えられるよう
どうぞご参拝ください
参拝者お一人ずつに
鐘を突いていただけます
あたたかいお接待もあります

令和六年 年回忌表

一周忌 令和五年没
三回忌 令和四年没
七回忌 平成三十年没
十三回忌 平成二十四年没
十七回忌 平成二十年没
三十三回忌 平成四年没
五十回忌 昭和五十年没

弔い、ご供養というものは、
継続的に積み重ねていくことが
大切です。年忌法事は忘れない
ように気をつけましょう。

長泉寺 清酒の来し方探求

寺子屋 文化講座

Vol. 43

～受け継がれし日本酒文化～

2000年に及ぶ日本酒の歴史を
ひもとくと、さまざまな側面
が見えてきます。
本講座では現在の製法につな
がる酒造りの変遷をたどり、
その魅力に迫ります。



12月18日(月)
19:00～20:30
於:長泉寺本堂
参加無料・予約先着50名
講師:市田真紀先生

夜明けの祝酒ながいづみ
奉修特別祈禱法会
十二月二十二日 冬至
午前九時 於本堂

どなた様も
どうぞお参り下さい



将棋クラブ

毎月一回 客殿で開催中 参加無料

■67回目
12月23日(土) 13:30-16:00

■68回目
1月27日(土) 13:30-16:00

いつも集まったメンバーで楽しくやっています。
どなたでもお気軽にご参加ください。

とんど焼き

1月14日(日)9時30分～
古札 古塔婆 古御守 正月飾り等 ご持参下さい